平成27年度自己評価計画書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　　考
1 看護師・介護福祉士に求められる学力の定着のため、本校の「スクールポリシー」「学力スタンダード」に基づいて、授業の工夫改善に努める。	① ICT機器、視聴覚教材を効果的に活用し、生徒の学習への関心を高め、内容の理解を促進する。	教務課	昨年度「ICT機器を活用している」の肯定評価の割合は、57.6%だった。ICTの効果的な活用について一層取り組む必要がある。	【努力指標】 学習意欲を喚起し、学力の定着に繋がるよう、ICT機器、視聴覚教材が授業中に適切に活用されている。	「授業においてICT機器、視聴覚教材を活用している」の肯定評価の割合が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満である。	C以下の場合は、活用方法、研修内容を再検討する。	職員によるアンケートを7月・12月に実施する。
	② わかる授業の実現に向けて、学習形態や指導方法、教材教具等の工夫改善をする。	教務課	昨年度の授業評価では他の項目より肯定評価が低い。生徒の主体的な学習活動を取り入れる必要がある。	【満足度指標】 興味深く学習意欲が湧くように工夫されている授業である。	「授業は興味深く、学習意欲が湧くように工夫されている」と評価した割合が、 A　80%以上 B　75%以上 C　70%以上 D　70%未満である	C以下の場合は、指導方法、研修内容を再検討する。	生徒による授業評価を7月・12月に実施する。
	③ 思考力、判断力、表現力の育成を図る指導法を開発し実践する。	共通教科 専門教科	基礎的・基本的な知識・技能を習得しているが、さらに、課題解決能力を身に付ける必要がある。	【努力指標】 思考力、判断力、表現力を育成する学習活動を意図的・計画的に授業に取り入れている。	「考えたり、発言する機会を授業中に設けている」と評価した生徒の割合が A　85%以上 B　80%以上 C　75%以上 D　75%未満である。	C以下の場合は、授業形態の工夫、授業内容を再検討する。	生徒による授業評価を7月・12月に実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現　　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　　考
2 専門教科指導を充実させ、看護師・介護福祉士国家試験100%合格を目指すとともに、専門職に就く者としての資質の向上に努める。	① 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	衛生 看護科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 国家試験演習の専門科目全ての偏差値42未満の生徒が0である。	偏差値42未満の生徒が A　0人 B　2人 C　4人 D　5人以上　である。	B以下の場合は、指導方法を再検討する。	看護模試(全国)を実施し、評価する。
	② 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	専攻科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 国家試験演習で専門科目の偏差値40未満の生徒が0である。	偏差値40未満の生徒が A　0人 B　1人 C　2人 D　3人以上　である。	B以下の場合は、指導方法を再検討する。	看護模試(全国)を実施し、評価する。
	③ ＜1、2年生＞ 自学ノートによる学習を課題とし、毎日継続して学習する習慣を身に付ける。 ＜3年生＞ 分野ごとの小テストや個別指導を実施	健康 福祉科	＜1、2年生＞ 家庭学習が習慣化していない生徒がいる。 ＜3年生＞ 国家試験演習で一定レベルに達して	【成果指標】 ＜1、2年生＞ 課題を提出する生徒の割合が100%である。 ＜3年生＞ 国家試験演習及び国家試験において	＜1、2年生＞ 課題を提出する生徒の割合が A　100% B　95%以上 C　90%以上 D　90%未満　である。 ＜3年生＞ 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65%以上の生徒	＜1、2年生＞ CまたはDの場合は、個別指導を行う。 ＜3年生＞ CまたはDの場合は、取り組み方法	自学ノートの取組状況を毎日チェックし、その集計を月ごとに行う。 演習ごとに確認する。

		し、専門知識の確実な定着を図る。		いない生徒がいる。	個々の得点率が65%以上である。	の割合が A　100%以上 B　95%以上 C　90%以上 D　90%未満　である。	を検討する。	

重点目標		具体的取組		主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
3	地域の医療・福祉を支える人材輩出のために本校が果たしている役割や取組の広報に努め、志願者の増加を図る。	①	体験入学、中学校訪問、個別説明会等を通して、看護師・介護福祉士の魅力と必要性や本校への理解に繋がる広報活動を行う。	総務課 教務課 健康福祉科	地域の医療機関・福祉施設等への就職者が着実に増加している。健康福祉科への志願者確保について取組強化を図る必要がある。	【最終成果指標】 昨年度より健康福祉科の志願者数が増加している。	健康福祉科の一般入試の志願者数が昨年度より A　大きく上回った。(30%以上) B　上回った。　(20%以上) C　変わらなかった。 D　下回った。　(10%以上)	C以下の場合は、広報活動の方法の見直しをする。	確定倍率で評価する。
					健康福祉科の志願者が十分に確保されていない。特に奥能登・加賀・小松・羽咋地区の志願者が少ない。	【中間成果指標】 奥能登地区、加賀・小松・羽咋地区において説明会の参加者が増加している。	奥能登地区、加賀・小松・羽咋地区における説明会の参加者数が昨年度より A　20%以上増加した。 B　10%以上増加した。 C　変わらなかった。 D　下回った。	C以下の場合は、説明の機会を増やす。	7月の時点での参加者数を評価する。

重点目標		具体的取組		主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　考
4	部活動や生徒会活動等への積極的参加を促し、看護や福祉の道を志す生徒にふさわしい人間力を育成する。	①	部活動推進週間の実施、部長会議の開催、必要に応じ個人面談を行い、全校生徒の部活動への積極的な参加を促す。	生徒会	部活動に積極的に参加している生徒の割合は、昨年度後期アンケートでは 77.7 %、出席率 50 %以下の生徒は 14.7 %である。	【成果指標】 校外実習日以外の活動日の参加状況を数値化する。	アンケートにて、部活動に積極的に参加できた生徒の割合が A　90%以上 B　70～90%未満 C　50～70%未満 D　50%未満	CまたはDの場合、参加率の低い生徒に対して個別面談を行い、部活動への参加を促す。	7月・12月にアンケートを行う。
		②	縄跳び(二重跳び)の実施により、自己記録の更新に努めながら、諦めない態度や体力の向上を図る。	体育科	個人の能力(技術・体力)の差が大きい。	【成果指標】 挑戦意欲を持続することができる。	二重跳びが連続30回以上できる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満　である。	CまたはDの場合には、個別指導を行う。	記録を提示する。
		③	強化週間を設けながら丁寧な挨拶をする習慣を身につける。	総務課 生徒会 生徒指導課	挨拶が十分でない生徒がいる。	【成果指標】 丁寧な挨拶が自然にできる。	保護者アンケートで A ほとんど全ての生徒が挨拶している。 B 多くの生徒が挨拶している。 C 挨拶している生徒は半数程度。 D 挨拶している生徒は半数以下。 A＋Bの割合が95%以上である。	A＋Bの割合が95%以下の場合は、集会などを通して注意喚起を促す。	PTA総会、7月と12月の保護者懇談の3回アンケートを実施する。